



題字 井口 文章
再刊 第308号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2019

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面…新たな選択に向けて進路説明会開催
錦城祭で最優秀賞に輝いたクラスに取材
二面…宇宙を目指す錦城の卒業生
300号記念、歴代委員長に聞く編集部

未来の自分が輝くために



進路選択へ一歩前進

10月2日(水)、1年生に向けた進路講演会と2年生を対象とした学部説明会が行われた。1年生はマイナビの講師の方の講演を聞き、文理選択をする上でのポイントを教わる。また、2年生は興味のある学部で、大学の講師の方から学部や大学について学んだ。

(編集部共同取材)



進路講演会講師の平野さんの話を熱心に聞く1年生

〈1年生 進路講演会〉

第1体育館では、1年生を対象に進路講演会が行われた。株式会社マイナビに勤める平野貴美代さんは、文理選択を間近に控えた1年生に自分の意思で進路を決定する大切さを伝えた。

平野さんは「まず、現代社会では自ら考え行動する『考動力』が求められることを、企業へ行ったアンケートをもとに紹介。その上で、就職活動に繋がる最初の選択である文理選択の重要性を訴えた。また、平野さんは文理選択のポイントとして『知識を増やすこと』と『自分軸で決めること』を挙げる。『大学についての知識不足や、先生や友達などの周囲の人の意見に流されるのは文理選択を失敗する典型的なパターンです。失敗しないためには、今から自分が興味のある学問・学校、仕事について調べて、十分な知識をもとに自分の意思で進路を決めることを心がけて下さい』と生徒に呼びかけた。



「一番大事なのは『自分で決めること』」

で、スポーツについての勉強がしたいと大学を選んだそう。大学を選択する中で『周りの人と意見がぶつかること』もありましたが、自分の中に明確な意思があったのでそれを突き通しました」と進路選択を振り返る。

最後に平野さんは「進路選択に正しい道はないです。勉強に部活になんでもやってみてくださいください」と笑顔でメッセージを送った。

錦城祭のナンバーワン決定

9月18日(水)、秋季球技大会閉会式で、錦城祭飲食企画・と話した。どのくらいの分量で作ったら美味しくなるか、クラス旗最優秀賞、クラT・調節することが難しかったという。また、当日は予想以上の売れ行きで買い出しが間に合わなかったことも。

飲食企画最優秀賞 2A

錦城祭飲食企画最優秀賞を受賞したのは「小平アイスムービー」を提供した2A。クラで、たくさんのお客さんに提ス企画係の林由惟さんは、売供できて良かったです」と笑り上げが思った以上に伸びたみをこぼした。

一般企画最優秀賞 2K

「2Kの理Kコースター」で、一般企画最優秀賞を受賞した2K。クラス企画係である乙津広都くんは「目標であった、事故・けががゼロを達成することができたので、満足する」と話した。錦城祭当日は、ジェットコースタグラムのようなデザインにしましたと話す。またクラス旗のデザインを行った千葉一

クラT・クラス旗最優秀賞

クラスTシャツ・クラス旗の最優秀賞に輝いた1A。クラスTシャツをデザインした高橋はるかさんは「クラス全員の名前に#をつけてインスタグラムのようなデザインにしました」と話す。またクラス旗のデザインを行った千葉一



クラス全員で作られた迫力あるクラス旗

晴くんは、担任の栗林健一先生の頭文字をとって栗を描いたそう。「栗のいがをクラス全員の手形で表現したところが気に入っています」と笑顔で語った。(杏・雀・卯)

再び蔵王へ スキー委員会始動

10月2日(水)、視聴覚室Aで第1回スキー委員会が開かれた。スキー旅行チームの串田昌也先生による概要の説明後、しおり、レンタル、PR各係のチームが決定。しおり係チームの阪本裕仁くん(2C)は「行事が好きなので何かできたらなと思いました」と語る。レンタル係チームである大坪蓮くん(2B)は「レンタルする道具のサイズを間違えないよう、一生懸命



行事に向け全力で取り組む3人

用意していきたいです」と話した。また、PR係チームの白倉由麻さん(2K)は「蔵王について少しでも知ってもらえるようなスキー新聞を作りたいです」と意気込んでいる。

どの学年もそれぞれ進路の選択を迫られている。自分自身で結論を出し、後悔の残らない選択をしよう。裏面では、大きな夢を追う卒業生を特集している。参考の1つにしてみてもどうだろうか。

生徒会役員立候補者募集中！！

希望者は10月16日(水)までに
英語科 野本先生へ

錦城文芸 トランポリンで全力飛躍

東日本大会において優勝

9月14日(土)に群馬県前橋市民体育館で行われた東日本トランポリン競技選手権大会に出場し、シンクロナイズド部門で優勝した児玉朱梨さん(1G)。シンクロナイズドとは、2台のトランポリンを並べて2人が同時に演技を行い、高さや美しさに加えて、いかに動きを調和させるかを競い合う種目だ。

児玉さんはこの大会に向けて、8月の下旬から週6日、毎日3～4時間練習してきたという。シンクロナイズドでは2人の動作の統一性が重要となる。その対策として「お互いに跳び方の癖を見つけて統一する練習をしました」と児玉さんは語った。

児玉さんは大会を振り返り「決勝は予選より落ち着いて楽しく演技をすることができました」と話す。今後の目標については「今回はシンクロナイズドで優勝できたので、次に出場する全日本大会では個人部門で準決勝まで進みたいです」と意気込んだ。(卯)



「次の全日本大会で準決勝を目指します」

〈2年生 学部説明会〉

チームに貢献する力を育成

経営学部の説明会は立教大学国際化推進機構グローバル教育センターの上原裕輔さんによって行われた。

社会で必要な力を養う

法学分野に関する説明は、中央大学法学部事務室の伴さんらから行われた。

機械が好きな人に最適

機械工学の概要や学問内容などについて、東京工科大学の阿蘇栄太さんによる説明が行われた。

むらさき草

今年7月、友人とMrs. GREEN APPLEの「The ROOM TOUR」に行った。ライブというより、まるで劇のような演出に感動した。一方で、友人は「メンバーだけじゃなく会場全体で創っているところがザ・ライブって感じだよ」と話した。そこでふと思った。どちらが正しいライブの感想なのだろうか、と。

最近、現代文の授業で夏目漱石の「こころ」を扱っている。仮説を立て、5、6人でそれぞれの意見を出し合う。グループワークを通じて、同じ物語を読んでも、本当に人によって視点が異なると感じる。先生の「同じ物語であっても『語り方』にその人の主観が生まれ、語る人間のもう一つの物語がある」という話が印象に残った。前述のライブは、ツアーが終わるまでライブに行った人がSNS等で演出や曲目を発信することが禁止だった。ツアーの全公演が終了した後、ラジオでバンドメンバーの大森元貴(Gt./Vo.)は「SNSが盛んな時代なので、いろんな感想が重くも軽くも発信できる。その感想が、ある意味ひとつの答えになってしまふ。ツアーが終わるまでなるべく先入観を他の人に与えないで欲しい」という意味で禁止にしていた。とネタバレ禁止にしていた理由を明らかにした。確かに、曲も演出も全然分らないままワクワクしてライブに向かった。先入観が無かったから本当に楽しめた。思っていた通り、2人の感想も全然違うものになったのだと思う。時には全く逆の意見が出てくる。今後はインターネットが盛んな時代だが、一つの意見を正解だと思わず、先入観を持たずに物事に向き合いたい。そして、自分の意見を持つとともに他の人の意見を尊重できるようにしたい。(杏)

#君の入部届をもらいたいその4 #女子バレーボール部

女子バレーボール部は、現在2年生2人、1年生2人で活動中。月・火・金・土曜日は第2体育館で練習、水曜日はトレーニング、木曜日はオフだ。女子バレー部の魅力を、部長の山田櫻さん(2J)に聞いた。

女子バレー部の特徴は、自主性。練習メニューも自分たちで考えて作っているそうで「試合に勝ったときの達成感は大いです。試合に負けたとしても、自分たちで決めたものだからこそ、すぐに振り返り次に活かすことができます」と話した。また女子バレー部では、練習前の掃除から靴を揃えるといった小さなことまで、身の周りのことをとても大切にしているという。「バレーの技術はもちろん、人としても大いに成長できる場所です」と語った。練習中に思ったことがあれば何でも言い合い、お互いアドバイスをしながら練習をしている女子バレーボール部。最後に「バレーはチームスポーツです。経験の有無を問わず、バレーと一緒にやってくれる人が増えたらとても嬉しいです」と山田さんは微笑んだ。体験入部は、第2体育館で活動する際に受け付けている。興味がある人は部長の山田櫻さん(2J)、もしくは國分は美先生まで！(槿)



初心者でも大歓迎！先輩が優しく教えます

